

四国銀行とは ▶▶ 四国銀行グループのあゆみ

当行は1878年(明治11年)10月17日に第三十七国立銀行として創業して以来、地域の皆さま、お客さま、株主さまのあたたかいご支援のもと、今日まで営業を継続してまいりました。今後も「地域と産業を牽引するベスト&リライアブルカンパニー」の実現に向け、進化を続けてまいります。

1878
創業 — 第三十七国立銀行設立 —

1896
第二百二十七国立銀行を合併

1899
本店を現在の場所に移転



1916
本店を新築



1919
株式会社土佐貯金銀行を合併

1923
株式会社土佐銀行を合併、
商号を株式会社四国銀行に改称

1926
株式会社関西銀行を合併
関西銀行本店を四国銀行徳島支店とし、
その他徳島県店舗21カ所他を継承

1930
株式会社高陽銀行を合併

1944
株式会社土豫銀行を買収

1945
株式会社土佐貯蓄銀行を合併

1950
高知信用組合の営業譲受

1974
東京、大阪両証券取引所市場第1部上場
四銀総合リース株式会社設立

1976
四国保証サービス株式会社設立

1978
創業100周年を迎える

1990
四銀コンピューターサービス株式会社
設立

1991
株式会社四銀地域経済研究所設立

1998
証券投資信託の窓口販売業務開始

2002
生命保険窓口販売開始

2006
インターネットバンキング(個人向け)
モバイルバンキング サービス開始

2010
四銀代理店株式会社設立

2016
四国の地方銀行4行による四国創生
に向けた包括提携
「四国アライアンス」の締結



2018
四国アライアンスキャピタル
株式会社設立

2018
地方銀行7行によるデジタル化戦略に関
する連携協定
「フィンクロス・パートナーシップ」の締結
共同出資会社「株式会社フィンクロス・
デジタル」の設立

2018
監査等委員会設置会社へ移行

2019
当行初となる保険の相談窓口
「ほけんプラザ薊野」設置

2020
四国アライアンス4行による地域商社
「Shikokuブランド株式会社」設立

2021
人材紹介業務の開始

2022
サステナビリティ方針の策定・
サステナビリティ委員会の設置

2022
幡多信用金庫との業務提携

2023
大和証券との協業開始



2023
経営理念の改定
10年ビジョンの策定
中期経営計画2023のスタート



創業→1900年代

社会の動き

1871
高知県誕生

1878
東京証券取引所開業

1889
大日本帝国憲法発布

1923
関東大震災発生

1926
健康保険法施行

1928
銀行法施行

1964
東京オリンピック・
パラリンピック開催

1973
第1次オイルショック

1985
プラザ合意

1989
消費税法施行

1991
バブル崩壊

1995
阪神・淡路大震災発生

2000年代→2010年代

2005
ペイオフ全面解禁

2008
リーマン・ショック

2011
東日本大震災発生

2013
日銀が「量的・質的
金融緩和政策」を導入

2014
消費税増税(8%へ)

2016
日銀が「マイナス金利政策」を導入

2018
西日本豪雨発生

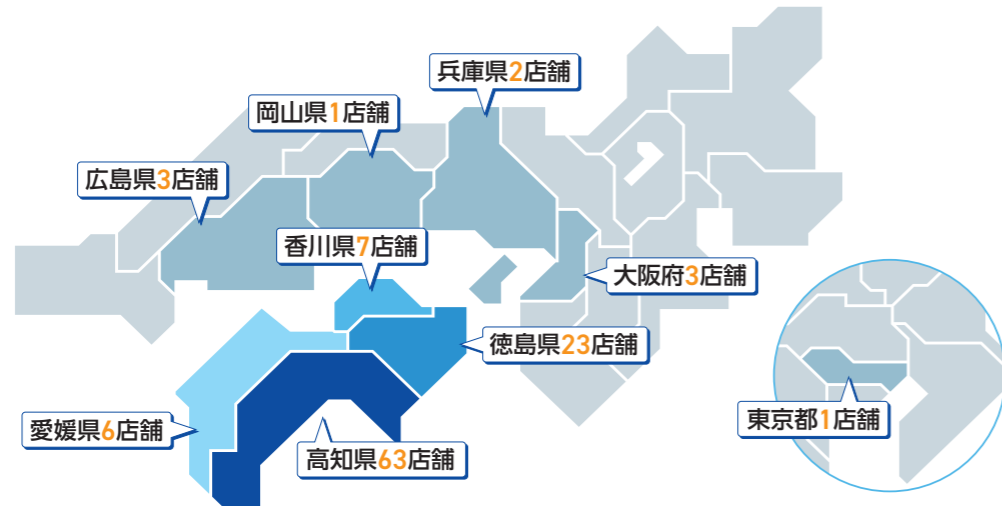
2019
消費税増税(10%へ)

2020
新型コロナウイルス蔓延

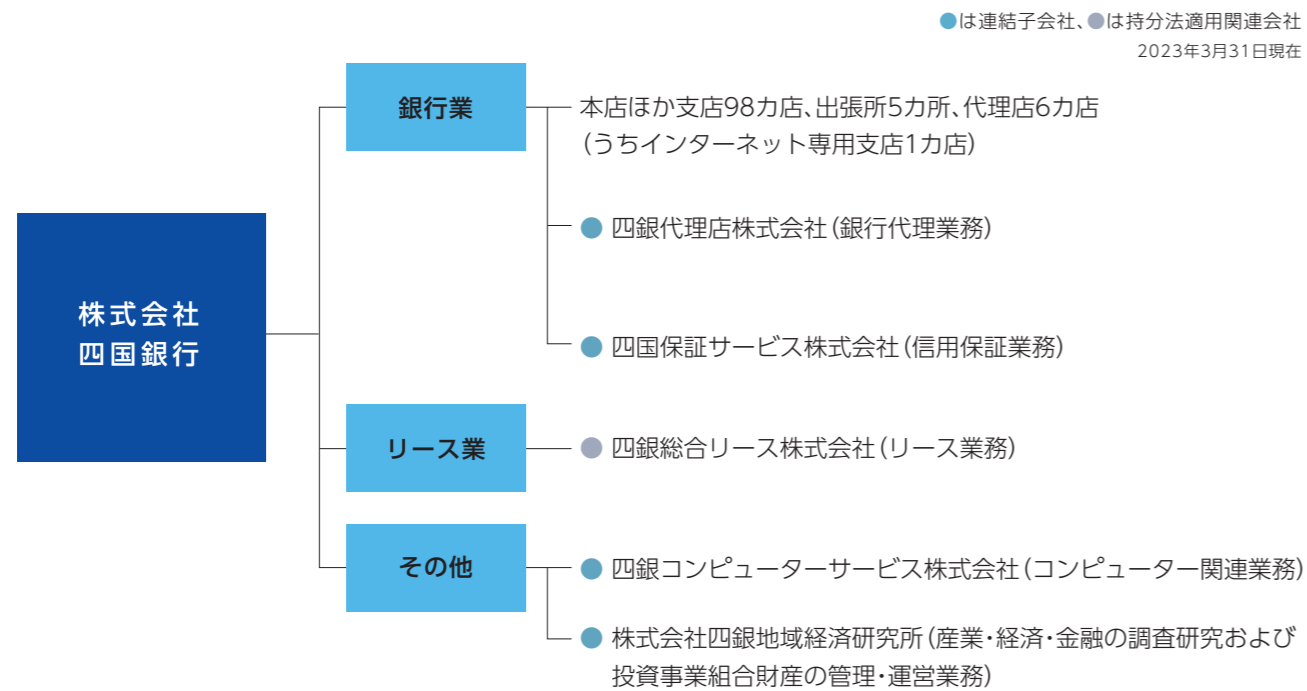
2021
東京オリンピック・
パラリンピック開催

2022
ウクライナ危機の発生

当行は、1878年に第三十七国立銀行として高知県で創業しました。創業以降、地盤である高知県を中心として、四国全域と瀬戸内・関西圏および東京都にも充実した店舗網を展開しています。これは、地方銀行の中でも有数の広域なものであり、当行の大きな特長です。



当行グループ(当行および当行の関係会社)は、当行、子会社5社(うち非連結1社)および関連会社4社(うち持分法非適用3社)で構成され、銀行業務を中心に、リース業務などの金融サービス等を提供しています。

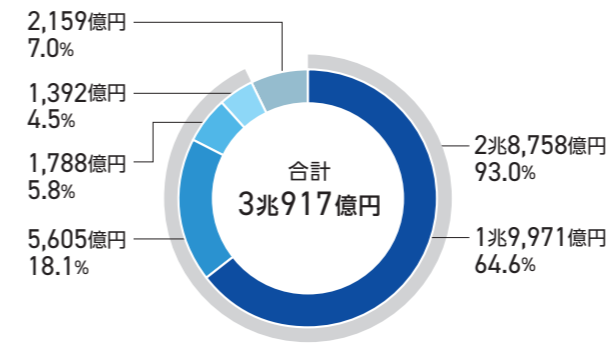


地域の皆さまの信頼に基づくお取引

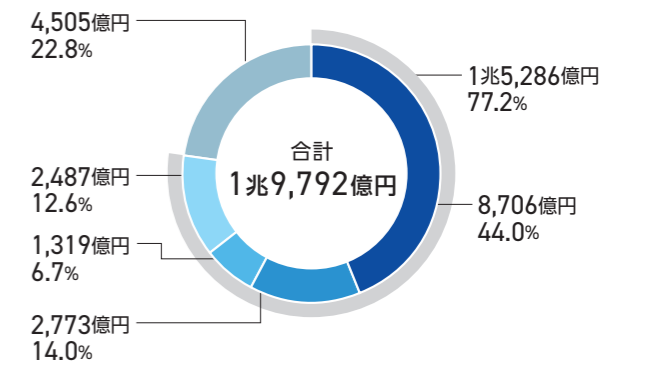
お客さまからの信頼を背景に、預金等残高および貸出金残高は堅調に推移しています。地域別に見てみますと、預金等残高につきましては本店を置く高知県において約6割を占めています。貸出金につきましては、広域店舗網の特長を活かし、高知県外のお客さまへの貸出金は総貸出金の半数以上を占めています。当行は、より多くのお客さまと接点の持てる、またお客さま同士をつなぐことのできるネットワークを活かして、ビジネスマッチングやM&Aなど課題解決に貢献しています。

■ 高知県 ■ 徳島県 ■ 香川県 ■ 愛媛県 ■ 本州地区都府県 ■ 四国地区

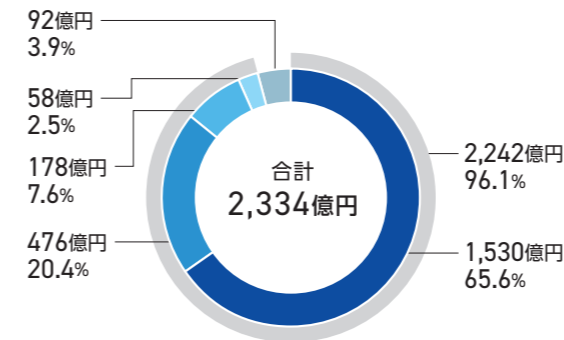
地域別預金等残高 (2023年3月末)



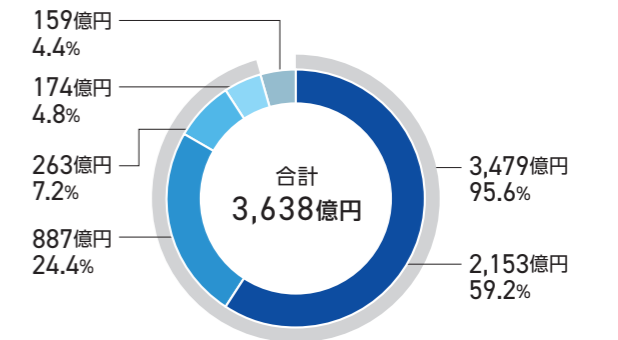
地域別貸出金残高 (2023年3月末)



地域別個人預り資産残高 (公共債、投資信託、個人年金保険等合計額) (2023年3月末)



地域別個人ローンの状況 (2023年3月末)



四国銀行が本店を置く高知県の現状等についてご紹介します

高知県の現状等

高知県は、北は四国山地、南は太平洋に面し、県内には四万十川や仁淀川などの清流が流れる自然豊かな場所です。こうした自然環境を活かして、これまで様々な産業が形成されてきました。

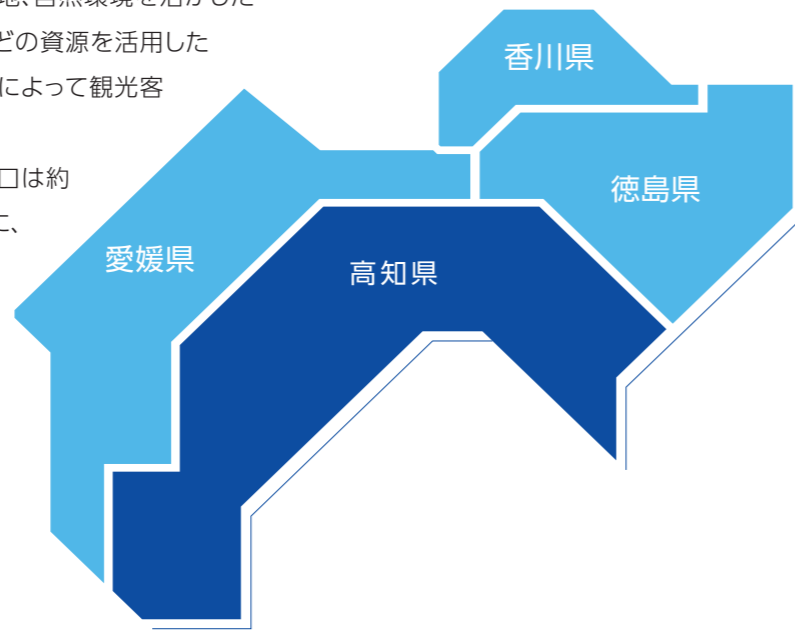
第1次産業は、全国1位の森林率(約84%)を背景とした「林業」、なす、ししとう、しょうが、ゆずなどが日本有数の収穫量を誇る「農業」、カツオの一本釣りに代表される「漁業」のそれぞれが発展しています。

第2次産業は、製造品出荷額の低さが課題ではありますが、県内には土佐和紙や土佐打刃物といった伝統的工芸品、酒文化を支える酒蔵、また、ニッチな分野において世界市場で存在感を示している企業などが立地しています。

第3次産業は、歴史文化を背景とした観光地、自然環境を活かした各種レジャー、および四国遍路八十八ヶ所などの資源を活用した観光業が盛んですが、新型コロナウイルス禍によって観光客数が大きく減少しています。

2020年の国勢調査によれば、高知県の人口は約69万人であり、1985年の約84万人をピークに、以降は減少し続けています。また、全国に先んじて高齢化が進行しており、産業の担い手や県内消費の減少が課題となっています。

このような課題に対し、デジタル化推進による生産性の向上、外商活動などに官民を挙げて取り組んでいます。



高知県の特長

移住者に選ばれています!

気候が温暖で暮らしやすく、移住者の数が過去12年で約7倍に増加しています



温暖な気候です!

年間日照時間 全国第1位(2,310.1時間)
(2020年 気象庁)



食べ物がおいしい!

地元ならではのおいしい食べ物が多かった部門全国第1位
(じゃらんリサーチ2006~2021年で上位3位以内受賞回数)



水質日本一!

水質が最も良好な河川として仁淀川と四万十川が選ばれています(2020年 国土交通省)



第1次産業



林業産出額
9,330百万円
全国**16**位(2021年)

農業産出額(耕地1ha当たり)
418.4万円
全国**2**位(2020年)

漁業産出額
42,441百万円
全国**9**位(2020年)

第2次産業



製造品出荷額等
5,471億円
全国**46**位(2020年)

第3次産業



県外観光客入込数
370万人/年
(2022年)

高知県外のエリア

愛媛県

船舶、タオル、製紙業や、魚類の養殖業など、全国でもトップクラスの産業を擁している県です。

香川県

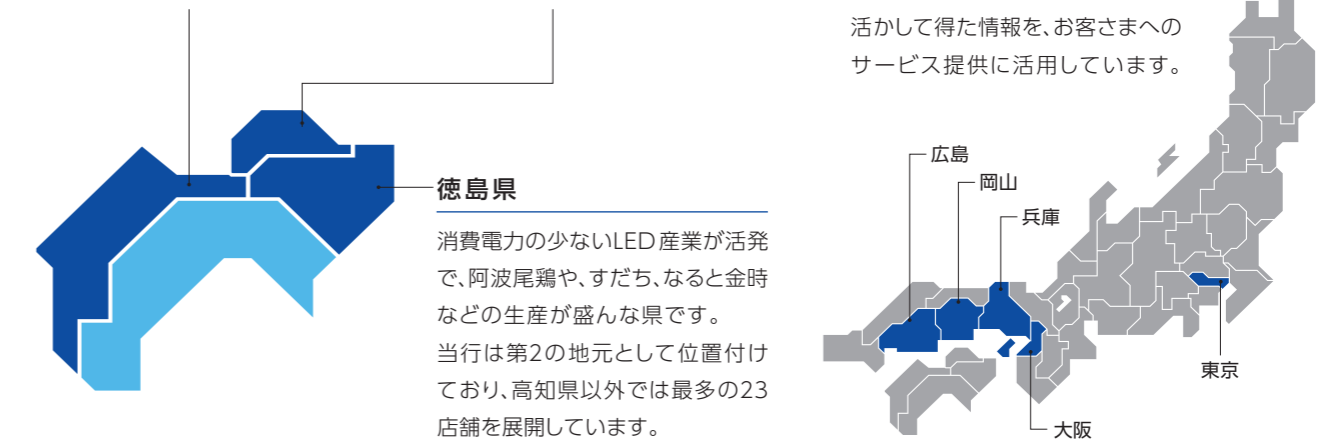
手袋や団扇の製造業が集積している他、建設用クレーンや冷凍調理食品で高いシェアを占めている県です。

徳島県

消費電力の少ないLED産業が活発で、阿波尾鷲や、すだち、なると金時などの生産が盛んな県です。当行は第2の地元として位置付けており、高知県以外では最多の23店舗を展開しています。

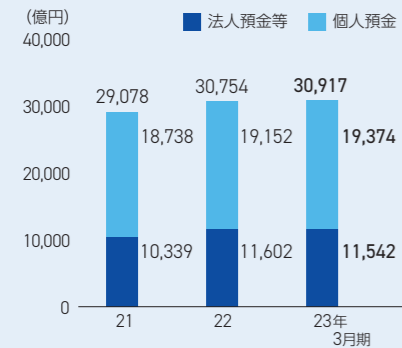
本州

広島県、岡山県、兵庫県、大阪府、東京都の5都府県に店舗網を展開しています。この広域な店舗網を活かして得た情報をお客さまへのサービス提供に活用しています。



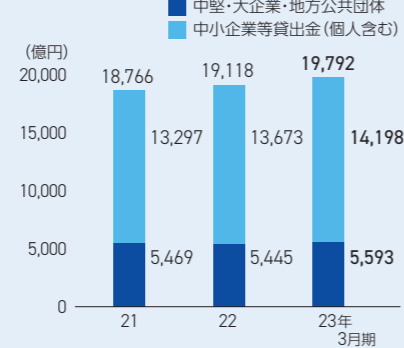
財務ハイライト

預金等残高 (譲渡性預金含む)



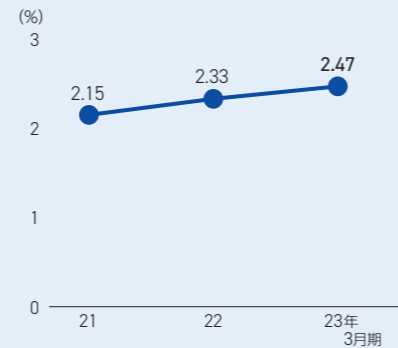
お客さまからの信頼を背景として預金等の残高は堅調に推移しております。今後も健全経営に努め、預金等の積み上げを図ってまいります。

貸出金残高



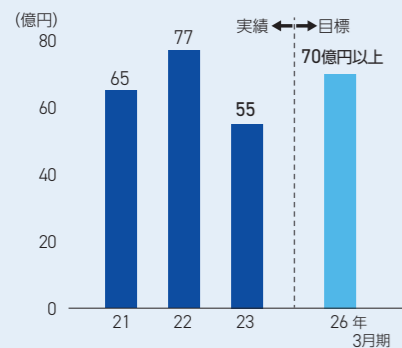
中小企業のお客さまを中心に貸出金残高は堅調に推移しております。今後も金融仲介機能の発揮に努め、健全な貸出金の増加を図ってまいります。

不良債権比率



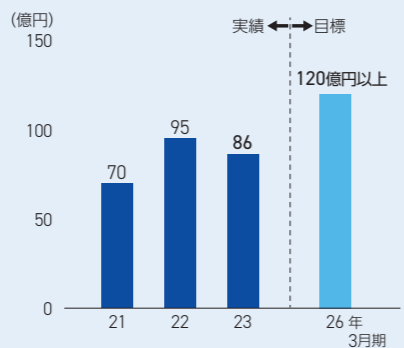
新型コロナウイルス禍や物価上昇等で苦しみお客さまをご支援し、貸出金の健全化に努めてまいります。

当期純利益



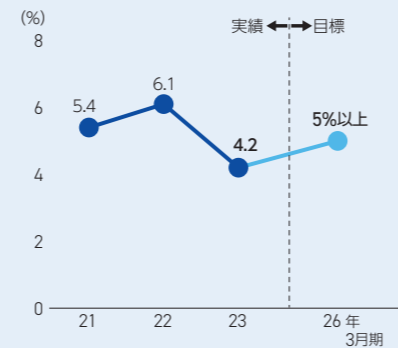
中期経営計画で掲げた施策を着実に実行することによって、2026年3月期の当期純利益は70億円以上を目指します。

コア業務純益 (投資信託解約益を除く)



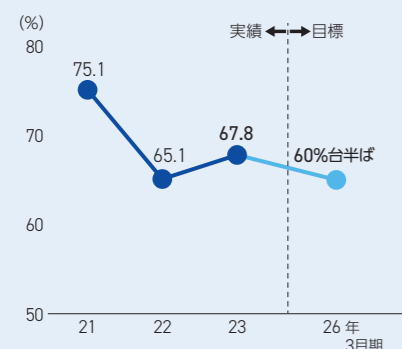
中期経営計画で掲げた施策を着実に実行することによって、2026年3月期のコア業務純益(投資信託解約益を除く)は120億円以上を目指します。

ROE (株主資本ベース)



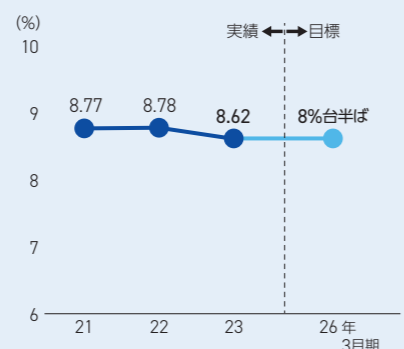
効率的な事業活動を行うことによって、収益性を高めてまいります。

OHR (コア業務粗利益ベース)



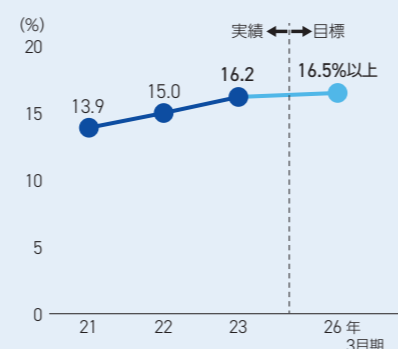
物件費やシステム費の最適化を通じて、各種費用の削減に努め、効率性の向上を図ります。

自己資本比率



自己資本比率は国内基準の4%を大きく上回っており、健全性を十分確保しております。

非金利収益比率



金融の枠に留まらないサービスをお客さまに提供し、収益機会の拡大を目指します。

非財務ハイライト

中期経営計画2023の数値目標

お客さまの企業価値の向上

2023年3月末基準との比較で企業価値が増加した融資取引先の割合

2025年度目標
60%以上

経営パートナーとして法人のお客さまの課題解決に取り組み、お客さまの企業価値向上に貢献してまいります。

事業所融資先数

2022年度3月期末
12,251先

2025年度目標
13,200先以上

より多くのお客さまとお取引いただけるよう、営業活動の強化に取り組むとともに、健全経営に努め、安心してお取引いただける銀行であり続けます。

サステナブルファイナンス実行額

2025年度目標
(2023年度からの実行累計)

1,000億円以上

お客さまのサステナビリティへの取り組みを金融面から支援するため、サステナブルファイナンスを積極的に推進してまいります。

事業承継・M&A支援件数

2019年度～2020年度
目標:3,350件 実績:5,095件
2021年度～2022年度
目標:4,400件 実績:5,514件

2023年度～2025年度目標
7,000件以上

円滑な事業承継・M&Aをサポートし、お客さまの事業価値および、地域の商流・雇用の維持・拡大に貢献してまいります。

証券口座数

2022年度3月期末実績
37,271件

2025年度目標
43,000件以上

大和証券との銀証連携モデルを確立し、より高度なコンサルティングを提供することによって、証券口座数の増加を目指します。

預り資産等残高*

2022年度3月期末実績
3,967億円

2025年度目標
4,400億円以上

大和証券との提携によって充実した商品ラインナップに加え、お客さまのニーズに合った生命保険等を提供し、預り資産等残高の増加を図ります。

*株式会社、円建債券(個人向け国債含む)、外国債券、投資信託、ファンドラップ、生命保険の合計残高

当行の事業活動を支える人的資本強化への取組み

人財育成投資額

2022年度3月期 実績
全体**50,965千円**(1人当たり38.4千円)

2023年度目標
全体**75,500千円**
(1人当たり57.2千円)

従業員が、お客さま・地域の課題解決に貢献できる専門性を身につける取組みを支援するため、人財育成投資額を増やします。

研修時間

2022年度3月期 実績
全体**49,563時間**(1人当たり37.3時間)

2023年度目標
全体**51,940時間**
(1人当たり39.3時間)

オンライン研修の拡充など、人財開発・育成プログラムに基づいた計画的な学びの機会創出に取り組めます。

監督職以上に占める女性比率

2022年度3月期 実績
24.5%

2025年度目標
30%以上

多様な人財の活躍推進の一環として、女性のキャリア形成や継続就業を支援してまいります。



第70回よさこい祭りに参加しました。今年のテーマは「四銀花結び」。
縁起の良い花結びのように地域の皆さまとご縁を結び、ともによさこい文化を
盛り上げていきたいという想いを込めました。

◎全国に広がる高知県発祥のよさこい

高知の夏の風物詩である「よさこい祭り」は、1954年、戦後の不況を吹き飛ばし、市民を元気づけ、地元商店街を発展させることを目的に始まったと言われています。第1回は21チーム750人であった参加者が、2023年の第70回には157チーム約1万4千人の踊り子が参加するまでに大きく成長しました。よさこい祭りは絶えず新しいものを取り入れながら進化を続けており、そのパワーは留まることなく、今では高知から日本全国、そして世界へとよさこいの輪が広がっています。その背景には、高知のよさこい祭りに誇りを持って鳴子を握り、夏に向けて半年、1年前から準備に励む高知の人々の熱い想いがストリートに伝わっていったことがあるのかもしれない。

◎観光資源としての魅力を語る

よさこい祭りは毎年8月9日(前夜祭)、10日・11日(本番2日間)、12日(後夜祭、全国大会)の4日間にわたり開催され、訪れる観光客は毎年100万人を超える高知県最大のイベントです。「鳴子を持つ」「曲のどこかに『よさこい鳴子踊り』のフレーズを入れる」などいくつかのルールはあるものの、それ以外は基本的に「自由」な祭りです。毎年変わる衣装や曲・踊りなど、チームごとに様々なバリエーションがあり、自由闊達な祭りであることも特徴の一つです。

参加者からのコメント

よさこい祭りの4年ぶり通常開催、そして第70回という記念すべき年に参加できたこと、大変嬉しく思います。当行の今年のテーマ「四銀花結び」に込めた、地域の皆さまとご縁を結び、ともによさこい文化を盛り上げていきたいという想いのもと一丸となって練習に励み、一体感のある演舞を披露することができました。新入行員や大和証券からの出向者など初めてよさこいに参加した人たちも、沿道の方々からたくさん温かいご声援をいただいたことで、地域の皆さまとの繋がりを感ずることができたのではないかと思います。人と人との繋がりを深めることのできるよさこいは私にとって特別な祭りであり、今後も参加を続けていきたいです。



ファイナンシャルアドバイザー
FAプラザ本店
第2グループ

亀井桃子

四国銀行 よさこいチーム

「四国銀行よさこい踊り子隊」の紹介

当行のよさこいの歴史は古く第1回から参加しており、踊り子隊は行員とその家族で構成されています。

黎明期には、よさこい祭りを盛り上げるために多くの行員を動員し、銀行の窓口を一部制限させていただくなどして祭りに臨んでいた時代もありました。

それから70年、1年のお休みはあったものの、「四国銀行よさこい踊り子隊」は連続参加を続ける老舗チームになりました。

2016年には、よさこい変革の声を上げた1人の行員に賛同したメンバーが、「地域の皆さまに元気と日頃の感謝の気持ちをお伝えしたい」という想いのもと、衣装・踊り・

音楽・地方車などを一新しました。「朱鳴子」や女性の踊り子が被る「笠」など長く守り続けてきた伝統は大切に、また地域の皆さまへの感謝を忘れず、四国銀行らしいよさこいに挑戦し続けています。

働き方に与える影響

当行がよさこい祭りに参加し続けている理由の一つに、「若手行員たちの輝ける場所をつくりたい」という想いがあります。毎年10名ほどの行員が「踊り子リーダー」として踊り子に踊りを伝え、教える役割を担っています。このリーダーの多くが入行数年以内の若手行員で構成されています。リーダーとして研鑽を積むことが日常業務にも活きるのではないかの思いから、我こそはという行員が年齢・職責に関係なく自主的にリーダーを務めています。

また、新入行員から取締役まで様々な世代が踊り子やスタッフとして数多く参加しており、普段の業務ではあまり関わることがない人々の交流の場ともなっています。それが行内のコミュニケーションの活発化やチームワークの向

上にも繋がっており、人財育成にも役立っています。

よさこい祭りの持続可能性の向上にむけて

2022年に、県内外のお客さまを前によさこい踊りを披露する機会がありました。現在の当行チームのよさこい踊りに加え、伝統的な「正調踊り」も披露しましたが、若い踊り子の中には正調踊りを知らない層も多く、祭りを伝承していくことの難しさを感じるとともに、これからのよさこい祭りの未来を築いていくためにも、古き伝統を守りつつ、新しいことにチャレンジする姿勢の大切さを改めて認識することができました。

その他にも、当行ではよさこい祭りにおいて、裏方として商店街の事前準備や当日の給水のお手伝いなどのボランティア活動も行っています。

私たちは、地域の文化を伝えるよさこい祭りを持続可能なイベントとして継承していくために、これからも地域とともに在り続ける企業として、果たすべき役割について考え、行動していきます。



SHIKOKU BANK
BASEBALL TEAM

四国銀行野球部の歴史

- 1929年 創部
- 1979年 社会人野球日本選手権大会
(日本選手権) 初出場・初勝利
対 仙台鉄道
- 1988年 日本選手権ベスト4進出
- 2007年 都市対抗野球大会 初勝利
対 岩手赤べこ野球軍団
- 2007年 日本選手権ベスト8
- 2010年 日本選手権2回戦進出
- 2020年 都市対抗野球大会ベスト8

中川監督からのコメント

平素は、当行野球部の活動にご理解を賜り、厚く御礼申し上げます。先輩行員の志と努力によって野球部が今まで受け継がれてきたことを大変有り難く思うと同時に、これからの後輩たちに引き継いでいくことの難しさを感じております。機械化やシステムの充実、営業店の統廃合により行員数が減少している中で、野球部員21名を長年維持していただいていることに感謝し、今まで以上に仕事と野球に対する情熱を持ち、成果を意識して活動してまいります。また、地域貢献活動にも積極的に取り組み、地域と企業をつなぐ存在となるよう選手の指導・育成に努めてまいりますので、引き続き、応援の程、よろしくをお願いいたします。



四国銀行野球部

野球部の存在意義と特長

当行野球部は今から94年前に創部して以降、野球を通じた従業員の士気高揚および一体感の醸成や、地域の皆さまに明るい話題を提供することを目的として、活動を続けています。

社会人野球全体で見ると、景気動向等の様々な理由によってチーム数が減少しています。そのような中、地方銀行の社会人野球チームは当行を含む2チームしかなく、全国でも珍しいものになっています。

全国には強豪チームが多く、優勝経験はありませんが、

銀行員ならではの緻密な作戦とチームワークを駆使して、これまで日本選手権で全国ベスト4、都市対抗野球大会で全国ベスト8まで勝ち進んだ実績があるなど、高知県に明るい話題や活気をお届けしてきました。

働き方に与える影響

創部当初より「仕事と野球の両立」を念頭に、野球部員は、午前中は野球練習に組み込み、午後からは銀行業務に従事しています。

こうした経験を経た野球部員は、タイムマネジメント力が向上し、効率的な業務遂行ができるようになっていきます。

また、野球部員が配属されている営業店・部署の同僚にとっても、業務受継・引継を通じたコミュニケーション力の向上や、お互いの業務の理解が進むなど、野球部の存在は、当行全体における働き方の好循環の原動力になっています。

このように、野球を通じて得たチームワークの大事さや、

戦術の立て方などは、銀行業務や地域社会の発展に貢献できる人材育成に役立っています。

地域の誇りとなる

高知県内唯一の社会人野球チームとして、地域貢献活動にも取り組んでいます。

野球部員がこれまでに培ってきた技術やノウハウを学生の方々に提供する取り組みとして、低学年対象の「ティール野球教室」、高学年対象の「野球教室」、中高生対象の「硬式ボールを楽しむ会」等に積極的に参加するなど、地域スポーツの発展に貢献しています。

また、地域清掃などのボランティア活動へもチームで参加しています。

四国地区のアマチュア最高峰の社会人野球チームとして、青少年の手本となるような活動にこれからも取り組んでいきます。

私たちは、金融を基盤とするサービスを通じて、グループ一体で“地域と産業を牽引するベスト&リアルブル カンパニー”を目指します。



価値創造を支える経営基盤

サステナビリティ方針 | 人財育成 | ガバナンス | コンプライアンス | リスクマネジメント | 最適化されたデータ・システム

	地域・法人	個人	チャンネル	当行に求められる変化
<p>当行が考える外部環境の変化</p>	<ul style="list-style-type: none"> 中小企業の経営の厳しさが増す 先例のない地域課題に對峙する必要に迫られる 	<ul style="list-style-type: none"> 資産運用手段が多様化し、適切な選択が難しくなる 各人に最適化された顧客体験を一層求めている 	<ul style="list-style-type: none"> お客さまとデジタルで繋がるのが当たり前になる 	<ul style="list-style-type: none"> 社会の時流に対して、迅速な対応が求められている 多様化している価値観の受け入れが求められている